

久留米大学を受診した患者さんへ

「小腸動脈性出血に対する超選択的動脈塞栓術の検討」の研究に使用する画像データについて

この研究では、久留米大学を受診し、手術・検査の際に採取し保存されている以下の画像データを使用します。

- 1) 期間：2010（平成22）年1月から2014（平成26）年12月
- 2) 受診科：高度救命救急センター、血液腫瘍内科
- 3) 対象疾患名：小腸動脈性出血
- 4) 使用する試料（画像データ：CT, 血管造影, 内視鏡, RI シンチ）

あなたの試料を今後の医学の進歩のために研究に使用させていただきたくお願い申し上げます。研究の内容の詳細は以下のとおりです。

研究内容をよくお読みになり、もし研究にご協力いただけない場合は、お手数ですが下記の連絡先までご連絡ください。

研究ご協力の撤回受付は研究成果の公表前までとなります。

ご了承くださいませよう、お願い申し上げます。

- 1) 研究組織：所属：放射線医学講座

研究代表者：准教授	小金丸雅道
研究分担者：教授	安陪等思
助教	岩本良二
助教	久原麻子

2) 研究の意義と目的：小腸出血の頻度は低く、全消化管出血の2～5%程度と言われております。原因は、炎症性病変、潰瘍性病変、腫瘍性病変、血管性病変、憩室性病変など多彩です。小腸出血に対する通常内視鏡は、出血部位の同定や診断のみならず、止血もきわめて困難かまたは不可能と考えられています。動脈塞栓術は、小腸出血に対する治療法の一つとして確立していますが、使用される塞栓物質や他のデバイスは報告により様々であり、塞栓術に伴う合併症や、塞栓後の再出血例も比較的多いと言われております。本研究は、過去に報告例のない、より細径のマイクロコイルを用いた超選択的動脈塞栓術を施行した症例を、後ろ向きに検討し、その安全性と有効性を評価することが目的です。

3) 研究の方法：各種画像データを解析し、以下の検討を行います。

- (1) 出血の診断方法の解析
- (2) 出血の責任血管の部位と特徴の解析
- (3) 出血血管に対する選択的マイクロカテーテル挿入方法の検討
- (4) 止血に必要なコイルの本数と動脈径の測定
- (5) 塞栓成功率
- (6) 塞栓後の臨床的成功率

（7）塞栓に伴う合併症の有無

4）研究期間：平成 27 年 9 月倫理委員会承認後～平成 28 年 9 月 31 日

5）上記の画像データの使用を選定した理由：本研究は、画像解析が主体なためです。

6）プライバシー保護・人権保護・倫理的配慮について：個人情報保護に関しては、医局研究室のコンピューターを用いますが、パスワード管理のため、研究責任者、研究分担者以外は閲覧できないようにしています。プライバシー保護、人権保護を厳守します。

7）研究成果の発表の方法：画像データは論文にて公表される可能性があります。しかし個人が同定される氏名などはすべて消去します。また検査日時、年齢などの詳細も公表しません。したがって、研究成果公表時における個人の同定はできません。

8）利益相反：本研究は特定企業からの資金援助はありません

9）事務局、問い合わせ、連絡先：

小金丸雅道（放射線医学講座、准教授）

（住所）福岡県久留米市旭町 67

（TEL）0942-35-3311（内線 3790）